

本年の早生種つがるの熟度調査結果では、今のところ平年に比べ酸度がやや低く、糖度はやや高い結果となっております。酸度が低い結果となった要因は、①成らせ過ぎ、②6月～8月(13日現在)が高温(呼吸数の増加によるエネルギーの消費)などと考えられます。今後、味の良いしっかりとしたりんごを生産するためにも、葉果比(ふじ:葉50枚に1果)を適正に保つよう見直し摘果を行い、また、葉を大切に管理(過度な早期葉摘みをしないなど)を行いましょ。

◆気象状況◆

弘前アメダスでは平年に比べ、降水量は少なく、気温が高く、日照量は多い傾向です。

高温条件下では、りんごはエネルギーを消費しやすく、過着果などでは品質の低下が懸念されます。

また、気象庁8月13日発表1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高い確率60%となっており、残暑の厳しい予報となっております。

着果量を見直し、気象に合わせた栽培管理を念頭に置いて作業を行いましょ。

月	降水量			平均気温			日最高気温			日最低気温			日照時間		
	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差(%)
4月	57	66	86	8.9	8.6	0.3	15.3	14.3	1	2.8	3.2	-0.4	215	183	117
5月	88	66	132	15	14.3	0.7	20.8	20.3	0.5	9.8	8.9	0.9	187	204	92
6月	41	72	57	19.7	18.3	1.4	26	23.9	2.1	14.7	13.7	1	245	182	135
7月	75	115	65	24.2	22.3	1.9	30.1	27.4	2.7	19.8	18.2	1.6	228	159	143
8月	36	52	69	25.3	24.2	1.1	30.2	29.4	0.7	21.5	19.9	1.5	77	73	105

*干ばつ傾向

*平年より気温が高い

*6~7月は日照量多い

◆早生種の着色管理◆ 葉の力で着色・糖度・肥大が向上します！！

時期 陽光面が着色し始めた頃が葉摘み時期のサインとなります。

ストップボール散布後5日以上経過し、陽光面にサインが現れたら行いましょ。

*つがるは20℃以下の低温で着色が進みます。

残暑が厳しく最低気温が20℃以上の日が続く場合は、必要以上に葉摘みをしても着色が進まず、軟質果や着色不良などの原因となりますので、葉摘みは控えましょ。

程度 葉摘みはツル元を中心に行い、果実に付着している葉を摘み取る程度です(ツル元の葉2~3枚摘む程度)。

つがるなどは、他品種と比べ葉数や芽数が少ないため、葉を摘みすぎないように特に注意をしましょ。

*摘み過ぎは食味不良、着色不良、油あがり、軟質果、日ヤケなどの原因となります。

つがるの着色の仕方	
葉	葉がないと着色しません 適正着果、葉摘みの時期と程度が特に重要
光	ごく弱い光でも着色します
気温	20℃以下で着色が進みます
熟度	熟度が進むと着色が進みます
期間	ふじ等に比べ短時間で着色します

◆早生種のJA入庫日◆ すぐりもぎで鮮度の良いものを！！

品 種	当 JA での入庫受付期間	注 意 事 項
き お う	8月28日 ~ 9月22日	すぐりもぎが必要です。また、黄色品種はオセが付きやすいため、収穫や運搬の際には特に気をつけましょ。
未 希 ラ イ フ	8月28日 ~ 9月12日	軟質果に注意し、着色の進んだものからすぐりもぎを徹底しましょ。
サ ン つ が る	8月28日 ~ 9月22日	すぐりもぎを行うことにより、残った果実に対し葉の枚数が増加しますので着色が進みま
葉取らずつがる	9月 3日 ~ 9月22日	す。

早生種山選果説明会:令和3年8月27日(金) 午前11時より
場所:長峰りんごセンター 並び 碓ヶ関りんごセンター

◆中生種の着色管理◆ 着色する気温を見極めてから取り掛かりましょ。

①ひろさきふじ 葉摘みは最低気温が15℃を下回る頃(例年9月5日以降)からツル元を中心に行う(葉は摘みすぎないように)。

玉回しは丁寧に行います。高糖度のひろさきふじは『夢ひかり』として販売しております。

葉を大切にし、『夢ひかり』の生産向上に努めましょ！

葉摘み後は、タイベックなど熱のこもらない白い反射シートを敷きましょ。

②ジョナゴールド 葉摘みは除袋前に行くと着色不良、軟質果の原因となりますので行わないでください。

除袋後に葉摘みを行ない、力強い着色で、鮮度の良いジョナゴールドを収穫しましょ！

◆日焼け防止対策とキズ防止対策◆

日焼けの原因は ①昼夜の温度格差が大きい日、②最高気温28℃以上、③果実が冷たいうちに強い日差しを受ける、④葉の摘みすぎ(果実に養水分が供給できなくなり、気温と共に果実温度が一気に上昇し日ヤケとなります)などにより引き起こされます。

着色管理(除袋・葉摘み・玉回し・支柱入れなど)を行う時間帯は、果実の温度が温まる午前10時~午後3時頃までに行いますが、前日の夜温が極端に低い日や、日中の温度が高温となる日は時間に限らず注意しましょ。

キズ防止対策として、『ミ・マモーレ』や『果実キズ防止パット』を使うと枝ズレの軽減となりますので積極的に使用しましょ。

◆薬剤散布◆

散布時期 反当散布量	対象病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍数	1000㎡当 薬量	収穫前 日数	年間使 用回数	防除上の注意
13回目 8月下旬 500㎡	黒星、褐斑、斑点落葉、炭そ、輪紋、双斑双点、モシクイガ、ナシヒメ、リンゴコガメ、ハダニ類、キモシロコ	展着剤 ダイパワー	1,000倍	1kg (1kg×1袋)	前日	3回	①ダイパワーの使用回数は、開花期以降ベフランと併せて3回以内。 ②ハダニの発生が見られるところではダニ剤を混用。
14回目 9月上中旬頃 特別散布 500㎡	すす病 黒星病 その他	展着剤 ストライド または オーソサイド	1,500倍 800倍	666g (333g×2袋) 1.25kg(1袋)	前日	3回 6回	①前回の散布から10~15日以内で、降雨前に散布。 ②黒星病は9月にも増殖します。来年の密度低下の為に、早生~晩生種、有袋無袋に関係なく全面散布。 ③オオタバコガやナシヒメシクイガなどが見られるところではフェニックスFまたはサムコルフを混用。

※ ストライドは高温時散布で黄変落葉の恐れがあるため、高温時には散布を控えましょ。

栽培履歴(農薬散布履歴)提出は令和3年9月3日(金)まで